

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 1 1 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 1 2 月 1 日)

調査期間：平成 1 7 年 1 1 月 1 7 日～ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 8 0 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 7 製造業 6 2 3 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 9 サービス業 6 0 9

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年11月調査結果のポイント】

業況DIは2カ月連続でマイナス幅縮小も、原油高など不安要因が依然漂う

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（29.2）よりマイナス幅が0.2ポイント縮小して29.0となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

業種別の業況DIは、製造、サービスでマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小したため、全産業合計の業況DIのマイナス幅も若干縮小した。業況好調、売上増加、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰等による景況の停滞感、客数の減少や客単価の下落など消費の低迷、先行き不安を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「人手が不足している大手企業でこなし切れない仕事がまわってきている」（建築工事）との声がある一方、「公共工事が少なく、業績面に影響が出ており、資材の仕入コストも高止まりで推移」（一般工事）、「公共・民間工事とも依然として低水準で推移しており、業者間の受注競争が続いている」（建築工事）との声や、「耐震構造計画書偽造問題」により、業界への不信感が高まることを懸念している」（建築工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「原油価格高騰の影響で仕入コストは高水準にあるが、売上増加でカバーしており、業況は好調」（金属加工機械製造）との声がある一方、「受注の減少により採算が悪化しており、原材料の仕入コスト上昇分の販売価格への転嫁も不可能」（金物類製造）といった声や、「原油高や円安の影響から仕入価格が上昇しており、今後製品価格へ転嫁できるかどうか課題となる」（製材木製品製造）と製造コスト上昇の影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「愛・地球博」も終わり、その反動としての業況好転が現実となってきた」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「業界全体の業況は横ばいか、もしくはやや低調と思われる」（食料・飲料卸売）との声のほか、「原油価格高騰等により仕入コストが上昇している一方、需要は冷え込んでおり、価格転嫁は難しい」（家具・建具など卸売）とコスト上昇分の価格転嫁ができない状況を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「雇用環境と消費者心理の改善を反映し、ファッション商品を中心に売上が好調に推移している」（百貨店）との声がある一方、「前月に引き続き来店者数は低調なまま推移し、売上高も前年を下回った」（商店街）、「消費者の財布の紐は堅く、秋物・冬物衣料ともに売上は低迷している」（百貨店）といった声が寄せられている。

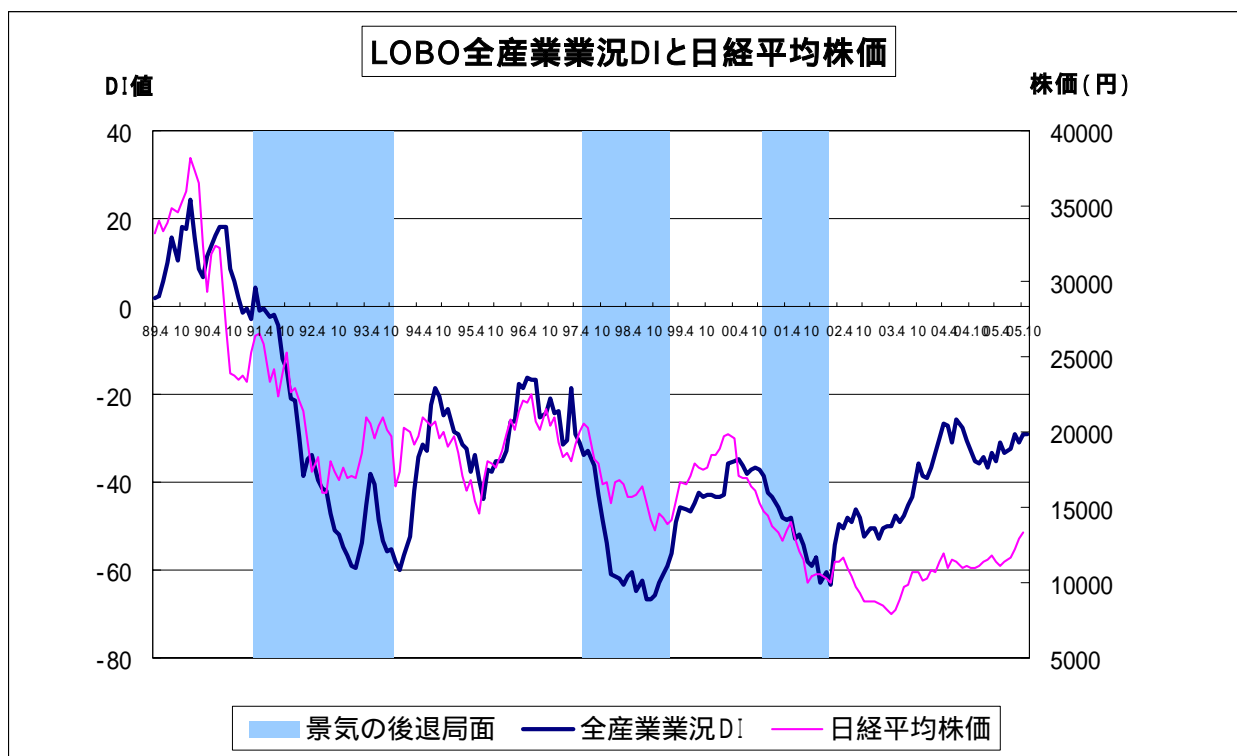
【サービス業】では、「先月から今月にかけて業況が好転しはじめたので、年末に期待できる」（食堂、レストラン）との声がある一方、「忘年会など宴会予約が減少し、先行きが不安」（食堂・レストラン）といった声や、「暖房を利用する冬を迎え、原油価格高騰が経営を圧迫する恐れがある」（旅館）と原油高の影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は製造で拡大したものの、他の4業種で縮小したため、全産業合計の売上D Iは3.2ポイント縮小して23.1となり、3カ月ぶりに縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は製造、サービスで拡大したものの、他の3業種では縮小したため、全産業合計の採算D Iは3.6ポイント縮小して28.5となり、3カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が22.6と、昨年同時期の先行き見通し(29.2)に比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰等による景況の停滞感、客数の減少や客単価の下落など消費の低迷、先行き不安を訴えるコメントが多く見られた。



【業況についての判断】

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（29.2）よりマイナス幅が0.2ポイント縮小して29.0となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

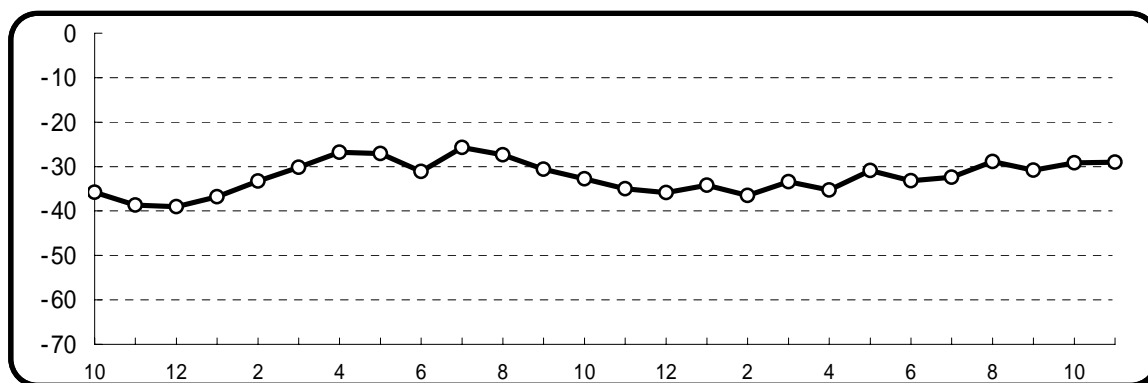
向こう3カ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が22.6と、昨年同時期の先行き見通し（29.2）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	33.2	32.4	28.9	30.8	29.2	29.0	22.6 (29.2)
建設	44.7	43.2	37.9	41.0	37.6	37.5	33.2 (45.8)
製造	23.9	21.2	18.5	21.2	18.0	19.5	17.6 (18.7)
卸売	40.2	38.5	35.3	29.3	41.5	32.5	25.0 (24.2)
小売	30.8	33.9	31.2	33.7	32.6	28.0	21.4 (30.8)
サービス	35.2	33.1	29.0	31.3	26.7	33.3	21.7 (29.4)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年11月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

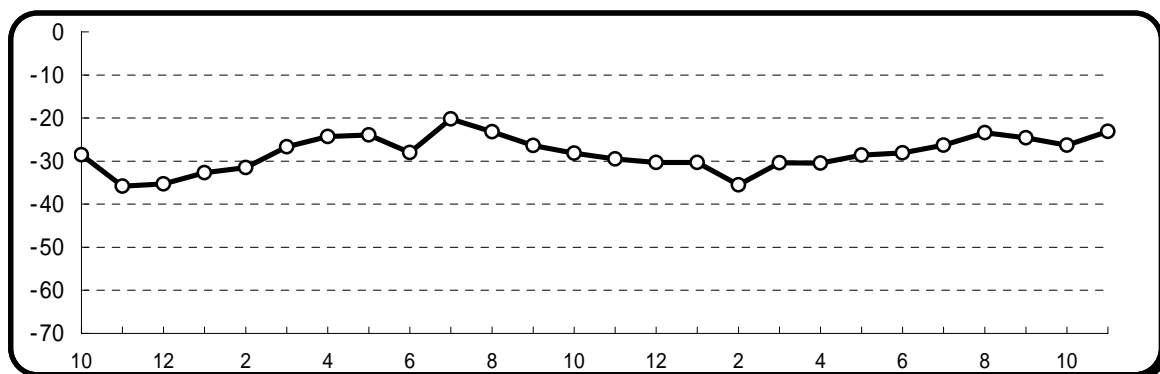
売上面では、D I 値のマイナス幅は製造で拡大したものの、他の4業種で縮小したため、全産業合計の売上D Iは3.2ポイント縮小して23.1となり、3カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が15.5と、昨年同時期の先行き見通し(25.3)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	28.1	26.3	23.4	24.6	26.3	23.1	15.5 (25.3)
建設	40.1	37.0	32.2	32.5	34.3	29.2	35.1 (45.1)
製造	10.3	9.6	9.3	6.7	5.8	11.8	8.9 (12.9)
卸売	39.9	36.7	37.1	32.5	40.9	35.1	19.1 (19.4)
小売	29.2	31.1	26.9	30.3	35.4	25.2	12.7 (27.4)
サービス	32.8	27.2	23.5	28.2	26.4	24.5	11.8 (25.2)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

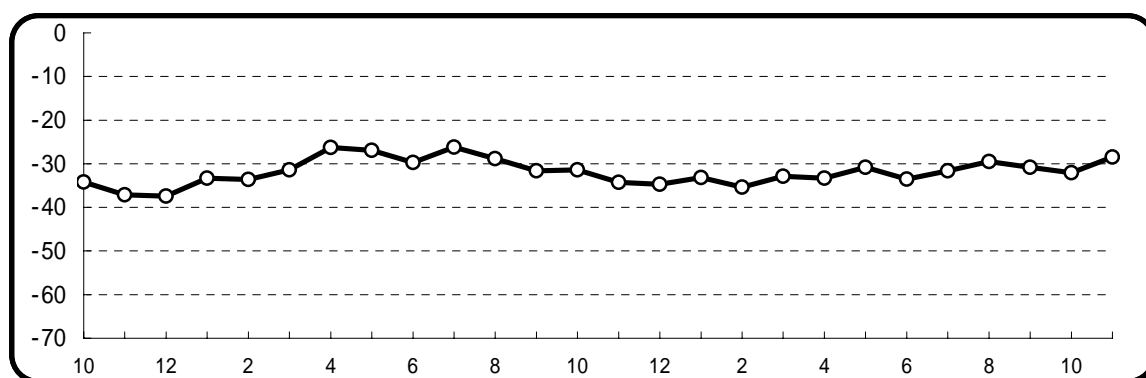
採算面では、D I 値のマイナス幅は製造、サービスで拡大したものの、他の3業種では縮小したため、全産業合計の採算D I は3.6ポイント縮小して 28.5 となり、3カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 21.5 と、昨年同時期の先行き見通し(27.9)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	17年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	33.5	31.6	29.5	30.8	32.1	28.5	21.5 (27.9)
建設	50.0	47.3	42.8	42.6	43.1	41.9	35.8 (47.6)
製造	27.1	27.5	24.6	23.5	21.6	24.1	19.5 (20.6)
卸売	32.9	29.6	30.6	33.1	41.5	27.9	16.4 (18.2)
小売	27.1	27.1	25.7	29.8	33.3	22.5	17.2 (26.9)
サービス	36.9	32.4	30.7	31.3	31.3	31.6	21.2 (27.5)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	22.4	20.7	19.2	19.6	19.0	17.3	15.9 (23.0)
建設	37.8	37.9	31.2	30.8	29.8	27.6	28.4 (42.0)
製造	16.8	17.8	17.7	17.5	15.5	15.1	14.5 (19.9)
卸売	16.5	19.6	13.3	17.7	20.9	12.3	11.3 (15.2)
小売	18.1	16.4	14.5	16.2	16.6	14.8	13.1 (18.1)
サービス	24.4	16.3	20.1	18.3	17.2	17.5	14.4 (22.3)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】サービスで悪化超感が強まったものの、他の4業種で弱まり、全産業合計でも2カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	16.9	17.3	17.2	19.5	19.0	17.7	16.6 (17.1)
建設	25.5	27.3	23.3	28.4	31.0	30.6	23.3 (25.7)
製造	31.8	31.0	33.5	35.0	36.3	34.6	26.2 (26.0)
卸売	14.6	16.0	12.9	14.7	13.2	1.3	7.3 (18.2)
小売	3.9	5.1	4.8	8.4	4.9	5.1	8.8 (5.1)
サービス	12.1	11.6	12.6	12.2	12.2	12.4	14.5 (16.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売、サービスで上昇超感が強まったものの、他の3業種で弱まったため、全産業合計でも2カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】製造、小売で上昇超感が強まったものの、他の3業種で弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	17年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	5.2	4.4	3.7	3.8	3.8	1.8	2.6 (8.5)
建設	19.9	20.2	18.6	17.4	19.0	16.9	17.0 (24.0)
製造	4.3	3.5	5.8	5.1	4.5	3.4	5.6 (11.8)
卸売	12.8	5.3	3.6	3.8	5.7	4.5	4.5 (7.0)
小売	3.6	0.2	3.0	3.5	2.8	6.5	4.4 (1.8)
サービス	3.9	0.5	0.2	2.1	0.2	1.2	2.3 (2.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】小売、サービスで不足超感が強まり、他の3業種で過剰超感が弱まったため、全産業合計でも過剰超感が弱まった。

【先行き見通しD I】小売、サービスで不足超感に転じ、他の3業種で過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年11月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「資材の仕入コストが上昇しているものの、請負単価に転嫁できず、厳しい状況になっている」(秋田・管工事)、「受注は確保しているものの、採算面で厳しい状態が続いている」(相生・船舶製造・修理)、「受注量は横ばいか少し増えると思うが、原油価格高騰等により資材の仕入コストが上昇したままで、先行きが不安」(伊万里・産業用電気機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「大手の同業者の中には業績の良い企業もあるが、地方の中小企業では景気回復の気配が感じられない」(倉吉・農畜産水産物卸売)、「依然、来店者数は減少傾向で、景気が上昇するような気配はどこにもない」(中津川・商店街)、「毎年、民間企業からの予約が減少し続けており、客単価も下落している」(川崎・食堂・レストラン)と、厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

回復への動き

一方で、各業種から、業況好調、売上増加、先行き期待という声も寄せられており、「民間工事のうち、個人住宅は需要があり好調を保っている」(静岡・一般工事)、「積極的な設備投資を行う事業者が出てきており、労働力確保にも力を入れている」(相模原・金属加工機械製造)、「受注が増加傾向にあり、今後も引き続き好調が予想される」(西条・建設・建築用金属製造)、「年末年始に向けて、荷動きが活発化する気配があり、忙しくなりそう」(倉敷・農畜産水産物卸売)といったコメントが寄せられている。また、「歳暮の受注に期待している。前年を若干でも上回りたい」(松山・百貨店)、「これから迎える忘年会・新年会の予約に期待したい」(野田・すし店)、「忘年会など宴会部門の売上増を期待したい」(那覇・旅館)と、先行きに期待する声も寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

各業種から、原油価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「原油価格高騰による資材の仕入・輸送コスト上昇分を価格に転嫁できず、採算割れが発生している」(札幌・一般工事)、「鉄、銅などの資材や燃料の仕入コストが上昇しており、昨年より収支が悪化している」(大津・計量器・測定器製造)、「ナフサの仕入コスト上昇が続けば、現在よりも収益状況が悪化する」(和歌山・有機化学製品製造)という声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは「原油価格高騰による輸送コストの上昇が問題となっている」(盛岡・各種商品卸売)、「原油価格高騰による包装資材や運送費の上昇が起きている」(焼津・百貨店)との声のほか、「依然、軽油の仕入コストの上昇は続いており、運賃への転嫁ができず、収支が厳しい状況は変わっていない」(小牧・その他サービス)と、コスト上昇分を価格転嫁できないというコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
17年 9月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇
10月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇
11月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「人手が不足している大手企業でこなし切れない仕事がまわってきている」(建築工事)「多少景気が上向きになってきたような感がある」(土木工事)との声がある一方、「公共工事が少なく、業績面に影響が出ており、資材の仕入コストも高止まりで推移」(一般工事)「公共・民間工事とも依然として低水準で推移しており、業者間の受注競争が続いている」(建築工事)「耐震構造計画書偽造問題」により、業界への不信感が高まることを懸念している」(建築工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは6カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「受注は好調を保っており、特に自動車関連企業では設備投資、人員採用の声も聞かれる」(自動車・附属品製造)「原油価格高騰の影響で仕入コストは高水準にあるが、売上増加でカバーしており、業況は好調」(金属加工機械製造)との声がある一方、「受注の減少により採算が悪化しており、原材料の仕入コスト上昇分の销售价格への転嫁も不可能」(金物類製造)、「原油価格高騰等により、原材料の仕入コストが上昇しており、粗利益を確保するのが難しい状況」(建具製造)「原油高や円安の影響から仕入価格が上昇しており、今後製品価格へ転嫁できるかどうか課題となる」(製材木製品製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「愛・地球博」も終わり、その反動としての業況好転が現実となってきた」(農畜産水産物卸売)「婦人服の動きは概ね好調」(衣服・日用品卸売)との声がある一方、「業界全体の業況は横ばいか、もしくはやや低調と思われる」(食料・飲料卸売)「原油価格高騰等により仕入コストが上昇している一方、需要は冷え込んでおり、価格転嫁は難しい」(家具・建具など卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月連続、売上・採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「業況は上昇傾向で、客単価も上がってきた」(その他の小売)「雇用環境と消費者心理の改善を反映し、ファッション商品を中心に売上が好調に推移している」(百貨店)との声がある一方、「日本全体の景況は改善の兆しが見られるが、地方の小売業までは波及していない」(百貨店)「前月に引き続き来店者数は低調なまま推移し、売上高も前年を下回った」(商店街)「消費者の財布の紐は堅く、秋物・冬物衣料ともに売上は低迷している」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは2カ月連続で縮小した。「団体客、個人客ともに例年並みで推移しており、来月は忘年会など宴会予約に期待したい」(旅館)、「先月から今月にかけて業況が好転しはじめたので、年末に期待できる」(食堂、レストラン)との声がある一方、「暖房を利用する冬を迎え、原油価格高騰が経営を圧迫する恐れがある」(旅館)「燃料である軽油価格の上昇により採算が悪化しているが、荷主との運賃引き上げ交渉は難航している」(その他サービス)「来店者数、客単価ともに減少しており、収益が悪化している」(その他の娯楽業)「忘年会など宴会予約が減少し、先行きが不安」(食堂・レストラン)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東北、北陸信越、東海、近畿、四国でマイナス幅が拡大したが、他の4ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも2カ月連続で縮小した。

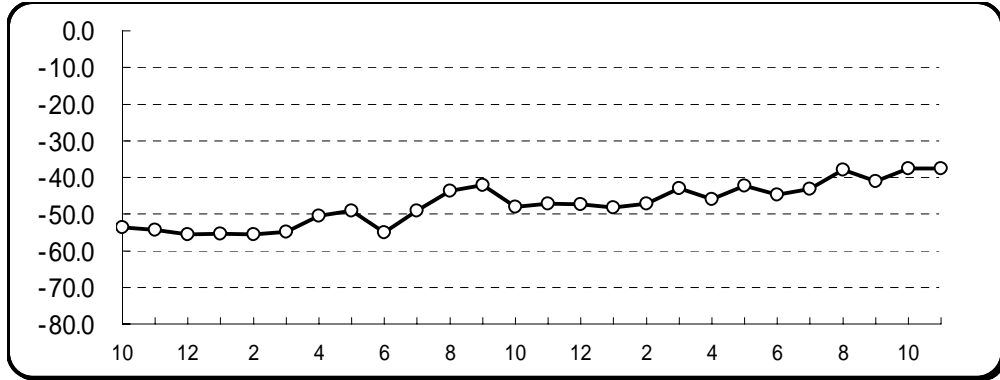
ブロック別の向こう3カ月(12月~2月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、東海でマイナス幅が拡大したものの、他の8ブロックで縮小し、全ブロック合計でも縮小している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

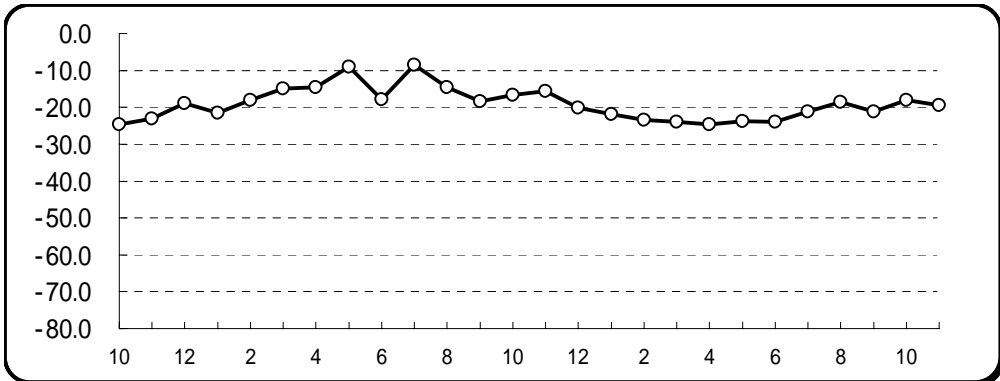
	17年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全 国	33.2	32.4	28.9	30.8	29.2	29.0	22.6 (29.2)
北海道	32.4	31.4	32.3	36.0	39.3	30.0	25.5 (36.1)
東 北	32.7	37.1	30.7	30.9	25.0	28.9	31.7 (37.8)
北陸信越	36.9	25.1	26.2	24.1	23.6	23.7	20.3 (32.0)
関 東	33.8	29.5	29.0	28.5	27.3	26.0	16.3 (22.0)
東 海	26.1	30.2	23.8	27.8	25.4	29.5	27.7 (21.9)
近 畿	35.8	40.7	31.7	28.9	31.2	32.4	27.0 (33.0)
中 国	30.3	32.9	29.2	37.2	32.9	26.6	21.0 (33.8)
四 国	40.8	37.4	33.8	40.1	30.2	34.1	22.2 (25.9)
九 州	28.9	29.4	24.4	32.8	33.3	32.8	20.0 (32.4)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

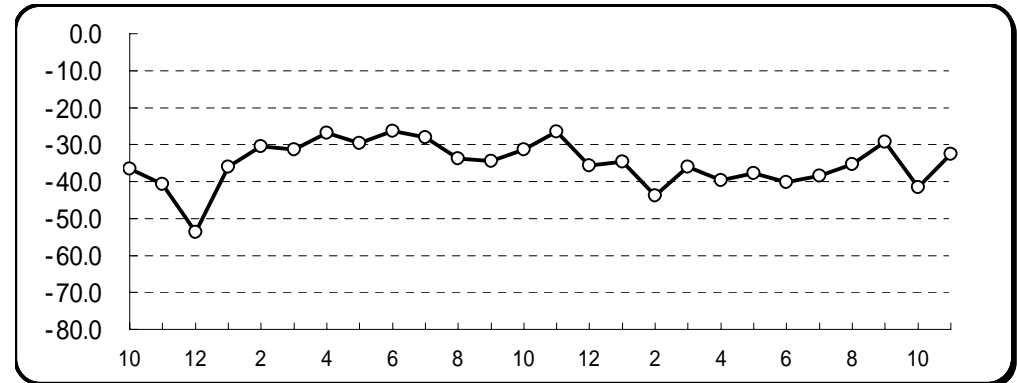
建設業



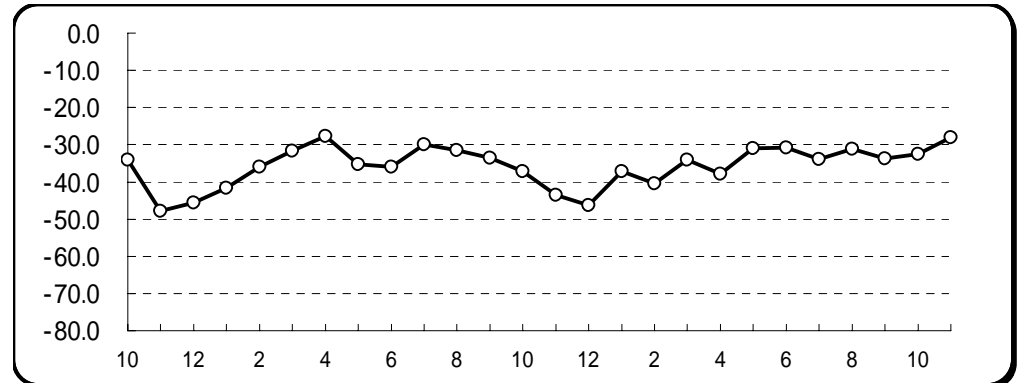
製造業



卸売業



小売業



サービス業

